



るうてる



2020年
6月
No.870

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷人■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座■ 00190-7-1734

説教「勇気を出しなさい」

日本福音ルーテル水俣・八代・鹿児島・阿久根教会 関 満能

「ところが、逆風のために弟子たちが漕ぎ悩んでいるのを見て、夜が明けるとき、湖の上を歩いて弟子たちのところに行き、そばを通り過ぎようとされた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。皆はイエスを見ておびえたのである。しかし、イエスはすぐ彼らと話し始めて、「安心しなさい。わたしが恐れることはない」と言われた。」

(マルコによる福音書6:48-50)



は、「もうダメだ」とすら思ったでしょう。けれども、イエスさまはすぐに彼らに向かって開口一番言われました。「勇気を出しなさい。」

イエスさまは、前に進めないでいる弟子たちに向かつて言われます。「勇気を出しなさい。」そして神さまもイエスさまも見えない中にある弟子たちに向かつて言われます。「勇気を出しなさい。」

私たちは、加速していく世界の流れの中で、またそこに生きる人びとに向かつていく中でなかなか前進できないことがあるかもしれない。不安や恐れがあつて新しいことに一歩踏み出せないこともあります。何よりも神さまのみ心を尋ねながら、それが分からない中で停滞してしまうことも起こります。

そんな私たちに向けてイエスさまは言われるのでしよう。「勇気を出しなさい。恐れることはない。私がいけないように思っても、私がここにいます。私だ。私が確かにあなたと共にいるのだ。安心して、さあ、行こう。舟を漕ぎ進めていこう。大丈夫。勇気を出して、この世界を共に行こう。」



伊藤卓奈

③月
「神は言われた。『光あれ。』こうして、光があつた。」(創世記1:3)

「わあ眩しい、何の光だろう。外を見て来てくれる。」と、車椅子で簡単には外に出られない私は家族の一人に頼みました。いつもより強く感じる光が真つ暗な玄関の上の方の窓から差し込んでいたからです。あまりにも明るいと、それはそれで不安になるものですね。

「向かいの家の方向があつたのかしら?」玄関の戸を開けたまま家族の一人が外へ出てくれました。

家の人「何にも無いよ。」

私「じゃあ何だろう?」

家の人「月じゃない。」

私「...あつかるいねえ。」

満月でも何でも無い月が暗い夜空を照らしていました。

それまでいくら月を見ても思ひ出さなかつたのに、不思議なことにその時、私は25年前、阪神淡路大震災で震災に遭つた友達してくれた文章を思い出しました。それはこのような文章でした。「地震で、何も無くなつた暗い夜、月だけは変わらずそこにいて、私を照らしてくれて、なんか場所も示してくれるし、安心しました。」

その文章を読んだとき、ニュースで観た情景や想像の中の景色がブアツと広がり、なんとも言えない気持ちになつたのを思い出しました。その友達とつて、その時見た月の変わらぬ光がいつももある存在として確かなものに感じられたんだな、と思われたことをまた思い出すことができました。

今もいつも変わらずそこに在る存在。安心する存在。道しるべ。それは神様も。神様いつもありがとうございます。



MASTER of Cabestany Christ Walking on the Water c. 1150 Museu Frederic Mares, Barcelona

時代がコロナ以前とコロナ以降に分けられると言われることもあります。世界や社会が大きく変わって行く中で、そこに

存在する教会も現に対応が求められ、礼拝のあり方など変化が必要とされてきているところだと思えます。そして、それはときに不安や恐れを伴うものでもあるでしょう。この中で私たちにはどんな言葉が与えられていくのでしょうか。

「安心しなさい」と「勇気を出しなさい」。同じ言葉が二通りに訳されています。この二通りの翻訳から次のような印象を受けました。

「安心しなさい」との言葉からは、イエスさまのちよつと休んだりするようなこと。一方で「勇気を出しなさい」との言葉からは、イエスさまから強く押し出されていくようなことをイメージしました。

そして、この2つのイメージが1つの言葉に内包されていることは、安心することと勇気を出すこととのつながりを示しているのかもしれない。歩き始め

たばかりの子どもが自由に世界を広げて冒険していくのは、たとえ転んでしまつても絶対的に安心できる親という存在がいるからであるように、歩いて転んでは神の許に返り、また勇気を出して歩き始めるというサイクルが見えてきます。

そして、私は、このイエスさまの言葉に強く背中を押されるような思いになりました。

弟子たちがいたのは風が強い湖の上です。何かあつたら溺れてしまうかもしれない危険や恐れがあります。また、湖の上で漕ぎ悩み、事態が思うようにならないものどかしさやこのままではいいのかという心配もあつたでしょう。しまいにはイエスさまさえも幽霊だと見間違えてしまつ中で、つまり神不在のように思える中で何が神さまのみ心なのか分からない孤独と不安があつたかもしれない。幽霊が来たと思つたときに

平和の祈りをつなげよう

～家族そろっておうち礼拝～

今年のルーテル子どもキャンは新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて残念ながら中止することとなりました。TNG 子ども部門ではキャンプに代わるプログラムとして、8月10日(月・祝)に「家族でおうち礼拝 by 子どもキャンプ」として、それぞれの場所で平和を想い、祈りを合わせることを予定、計画しています。詳細が決まり次第、ご案内しますのでご期待ください。



TNG子ども部門 池谷孝史



「聖霊行伝」

「それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今のことを自聞きして

授・間垣洋助先生の「使徒行伝」の講義での言葉を想起します。まだ新共同訳聖書が出る前でしたので「使徒行伝」と呼ばれていました。間垣先生は大学では学問としての新約学を大変厳しく指導してくださいま

した。しかし神学校に入った途端に「あなたたちは牧師となり、説教をするのだから」と言われて印象は変し、とても温厚になられたことを思い起します。私はそこから、学問的に真理を探究する際の真摯さと牧会者として温かく実存的

に聖書の人々と分かち合うことの両面をバランスよく保つことを学ばせていただいたように思います。その時間垣先生は開口一番「こう言われました。『使徒行伝』には主として、前半はペトロの、後半はパウロの言動が記さ

れています。しかし本当の主人公はペトロでもパウロでもなく、彼らを捉えて立て、派遣し用いてゆかれた神の聖霊です。だからそれは『使徒行伝』というよりも『聖霊行伝』と呼ばれるべき書物です」と。40年近く前の言葉ですがストンと腑に落

かれました。続けてこう言われました。「使徒行伝には28章ある。しかし、聖書は閉ざされた(完結した)書物ではありません。神の聖霊があなたがたを捉え、あなたがたを用いて29章以降を書き加えてゆくのです」と。神の聖霊は今ここで

も働いていて、その救いの歴史は未来に向かって開かれています。私の専門領域の二つに「スピリチュアルケア」があります。WHOは人間のウェルビーイング(安寧)のために

「いぐ存知です。神がその「いのちの息吹」によってお人おひとりの今ここで二ツズを豊かに満たしてくださるようにお祈りしています。シャローム。」

り、年によって待降節でありながら礼拝後にクリスマス祝会を行うこともある。また兼任体制などの事情で礼拝時間を変更する場合、主日と曜日の関係が問われることもある。ルーテル教会はこれに柔軟に対応してきた。

賛美歌と私たち



⑫賛美歌は未来予想図 (名古屋めぐみ教会牧師) 小澤周平

以前、私は、フィンランドでカントール(教会音楽家)をしている友人に、礼拝の「前奏」の曲選びについて尋ねたことがありました。オルガンを弾けない私は、オルガニストの方から受けた質問に上手く回答できずにいたからです。

初め、私は、フィンランドでカントール(教会音楽家)をしている友人に、礼拝の「前奏」の曲選びについて尋ねたことがありました。オルガンを弾けない私は、オルガニストの方から受けた質問に上手く回答できずにいたからです。その答えはシンプルでした。礼拝の「前奏」は、最

初め、私は、フィンランドでカントール(教会音楽家)をしている友人に、礼拝の「前奏」の曲選びについて尋ねたことがありました。オルガンを弾けない私は、オルガニストの方から受けた質問に上手く回答できずにいたからです。その答えはシンプルでした。礼拝の「前奏」は、最

初め、私は、フィンランドでカントール(教会音楽家)をしている友人に、礼拝の「前奏」の曲選びについて尋ねたことがありました。オルガンを弾けない私は、オルガニストの方から受けた質問に上手く回答できずにいたからです。その答えはシンプルでした。礼拝の「前奏」は、最

初め、私は、フィンランドでカントール(教会音楽家)をしている友人に、礼拝の「前奏」の曲選びについて尋ねたことがありました。オルガンを弾けない私は、オルガニストの方から受けた質問に上手く回答できずにいたからです。その答えはシンプルでした。礼拝の「前奏」は、最

エッセイ 「礼拝なき主日?あらためて主日を思う」

宮本 新 (ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校専任講師)



私たちが教会暦を大切に扱う教会ではあるが、時折、日々のカレンダーとの間に折り合いを要する場面がある。降誕祭はその代表例であ

私たちが教会暦を大切に扱う教会ではあるが、時折、日々のカレンダーとの間に折り合いを要する場面がある。降誕祭はその代表例であ

私たちが教会暦を大切に扱う教会ではあるが、時折、日々のカレンダーとの間に折り合いを要する場面がある。降誕祭はその代表例であ

私たちが教会暦を大切に扱う教会ではあるが、時折、日々のカレンダーとの間に折り合いを要する場面がある。降誕祭はその代表例であ



るうてる法人会連合の取り組みから

合同にメリットはないと判断されています。それぞれの自主自立を堅持した中での協働を生み出していくことがより現実的であるとして活動を続けているのが実情です。

日本でのルーテル教会の宣教はその初期から教育・社会福祉の分野と深く関わってきました。2002年、伝道(宗教学法)・教育(学校法人・奉仕(社会福祉法人)の働きをこの世全体に向けられたものとして総合的に捉え直し、福音的信仰に立つて新たな宣教の展開へと向かうことを目指して、「るうてる法人会連合」が結成されました。各分野の現在の取り組みを紹介いたします。

ルーテル学校法人会

石居基夫
(ルーテル学院大学学長)

ルーテル学校法人会は、2003年に日本福音ルーテル教会関係のルーテル学院、九州学院、九州ルーテル学院の3つの学校法人がその教育的宣教の目的において、協働していくために設立されました。当初は、法人一本化なども視野に入れた教職員間で研修・研究なども行ないましたが、結論としては、現状において

ルーテル社会福祉協会

中島康文
(ルーテル社会福祉協会会長・市川・小岩教会牧師)

協会の発足は1976年1月14日です。発足当初の会則には、以下のような前文が記されています。「神の恩寵豊かなことを祈ります。従来、日本福音ルーテル教会常議員会の決議によって、米国のルーテル教会の援助をうけて設立された社会福祉法人が1975年から完全に自給経営することになりました。つきましては、各法人が日本福音ルーテル教会設立の施設として、設立の精神を高揚し、教会の要請に応答するのは勿論のこと、新しい時代に即応して、さらに日本の社会福祉界に貢献する新態勢をつくりだす必要性を痛感します。共通の問題、協同の活動にとりくみ、連絡、調整、調査研究、その他の協議をおこない、神の委託の実現に万全を期するため『ルーテル社会福祉協会』を結成するものであります。」この主旨は今も変わらず堅持され、神と人とに仕えつつ、教会・社会に貢献すべく法人となるために、信仰を同じくする社会福祉法人が共働していこう

合同にメリットはないと判断されています。それぞれの自主自立を堅持した中での協働を生み出していくことがより現実的であるとして活動を続けているのが実情です。実際には、この3法人にとどまらず、日本ルーテル教会連連の2つの学校法人、聖望学園と浦和ルーテル学院とを含めた5法人で40年以上続けた「ルーテル諸学校」において、日本におけるルーテル教会の教育宣教の具体的協働を実現してきています。「代表者会」をもってそれぞれの経営の責任を負う者たちが現状を報告し合い、共に学び、与えられた使命を實現できるように具体的協働活動を生み出してきています。その一つは、夏に神戸ルーテル神学校を会場に行われる夏期研修会(「ミッションスクールで働く誇りと感謝と喜び」を主題に掲げ、現場を取り巻く様々な課題について研修を行ってききました。今一つは、キャンパスミッション協議会であり、学校のキリスト教教育活動と地域教会との連携を強化しつつ、青少年にキリストの福音を伝える働きを強化する取り組みを重ねてきています。

ルーテル幼稚園・保育園連合会

和田憲明
(ルーテル幼稚園・保育園連合会会長・箱崎・聖ベトロ・日市・長崎教会牧師)

協会を発足させたものの、活動が活発に行われるようになったのは、1995年以降のことです。社会福祉関連8法が改正され、社会福祉の在り方に更に大きな変化が見られたことから、協会も定期的に総会が開催されるようになり、また、ルーテル教会内の「法人会連合」、他のキリスト教社会福祉を實踐している組織等と協力体制を整えてきました。現在は11の法人が加盟し、会報を発行し運営委員会を組織して、「ルーテルの信仰を土台とする働き」を結集しようとしています。

協会を発足させたものの、活動が活発に行われるようになったのは、1995年以降のことです。社会福祉関連8法が改正され、社会福祉の在り方に更に大きな変化が見られたことから、協会も定期的に総会が開催されるようになり、また、ルーテル教会内の「法人会連合」、他のキリスト教社会福祉を實踐している組織等と協力体制を整えてきました。現在は11の法人が加盟し、会報を発行し運営委員会を組織して、「ルーテルの信仰を土台とする働き」を結集しようとしています。在、およそ2年毎のペースで東教区と九州教区の間を行き来しています。昨年10月より「子ども子育て支援新制度」が始まり、保育料無償化が行われ事務的対応を迫られました。そのため昨夏の研修においては、キリスト教保育の立場から新教育保育要領にむけて「新キリスト教保育方針」の学びを深めました。今夏も年に1度の全国夏期研修会を広島で行う予定でしたが、新型コロナウイルスの対応で中止を余儀なくされました。保育の現場も変わらざるを得ない今、新たなかたちを模索しなくてはなりません。SNSを駆使した取り組みを、それぞれの園で試行錯誤している状況ではないでしょうか。私どもの園も事始めに周囲の園をリサーチしたところ、「田園調布ルーテル幼稚園」のサイトに目が留まりました。早速園にお聞きしたところ、より広く園でのキリスト教保育の実践を知ってもらうためにスタッフで議論し、チャレンジしているとのこと。すでに私たちの大きな問題ですから、一見に如かず、ぜひ一度サイトを「ご覧ください。感想をわかちあひ、試みを互いにシェアし、新たなミッションを生み出していく会になればと願います。

パンフミンクの中の「エイリア」

久保彩奈
本郷教会

「明日へ命をつなぐ『日ごとの糧』を届ける」

3月下旬野宿の方に「いつもありがと。でも今回のことはやはり…。俺たちのために本当にありがと」と涙ながらに言われ、私も泣きそうになりました。東京都渋谷の炊き出しは3月で半減、緊急事態宣言を受けさらに半減しました。野宿を余儀なくされている人々は、何日も食へられず「コロナの前に餓死する」と口々に言うほどの状況です。私自身渋谷で12年間活動してきましたが、今まで見たことがないほどの壮絶な飢えが路上にあります。また「住所(住民票)がないためマスクも届かず、現行案では給付も受けられません。支援者たちと連携し行政と交渉中です。現状を鑑みて4月からは通常月2回の活動を、週2回実施すると決定した直後に、冒頭の出来事がありました。通常は10人以上の仲間と準備していましたが、現在ボランティアは募集せず、代表の久保、連れ合いの片岡平和、前代表の

「ほしくずの会の活動」

安藤徹子
会長・蒲田教会

3人で活動しています。食事を届ける小さな活動ですが、明日へ命をつなぐ「日ごとの糧」を届けています。すでににお支えくださった皆さんへ、心から感謝申し上げます。

ただ月2回の活動を週2回の4倍に増やし、毎回20人以上の方が給食に來られる為、費用が高ないます。本来すべての人が日ごとの糧を得られる社会になることが私たちの夢です。しかしこの状況がいつまで続くのか不透明です。引き続き、支援いただきけると幸いです。ゆうちょ振替口座 00110-3-456889 ゆうちよ銀行口座 支店019 当座0456889 名義「聖公会野宿支援活動・渋谷」 名義は以前の活動名のままですが、ちかちゅう給食の献金として使われます。

「ほしくずの会の活動」

安藤徹子
会長・蒲田教会

30年ほど前に荒川と台東両区に跨る「さんや」の路上生活者を対象に、カトリックの中村訓子シスターが中心になり「ほしくず」の活動を

始めました。その後、ルーテル教会員がほしくずを支える「ほしくずの会」を発足させ1992年12月に毎週火曜日の夜にはさんやでお握りを配り始めました。数年前まではお握りは750個ほど、即ち300人位の方に、お味噌汁と一緒に配っていましたが、現在はその半分以下300個ほどを準備しています。お握りの数が半減した理由の一つはさんやの路上生活者が高齢化し、生活保護受給者になったからと言われています。今回のコロナウイルス拡散はほしくずの活動にも影響を及ぼしています。お握りとお味噌汁作りは、30平方メートルの狭い部屋で10人、時には15人もの人々によってなされているからです。狭い部屋で、肘と肘が触る程の間隔でお握り作りは、いわゆる3密の危険を冒すこととなります。ルーテル教会員のボランティア女性達は、高齢者や基礎疾患持ちが多いこともあり、お味噌汁作りは4月から休止となりました。お握り作りは、さんや地区近隣の炊き出しで中止になっているところが多いこと、また地元男性が続いて参加されている等の理由で、続けています。数年前からのほしくずの会、お支えくださっている方々は高齢者が多く、また献金額も減少していることがわかります。ボランティアは多いのですが、食料購入及び家賃を払う資金が不足しています。

北海道特別教区

小泉基
(北海道特別教区長・
函館教会牧師)

北海道特別教区の40年目のあゆみが始まりました。今期からは、6つの会堂をもつ4つの教会による一致したあゆみです。規模が小さいことのメリットを活かして、フットワークよく取り組みをすすめていきたいと思っています。

さて、ウエブ会議システムを導入して定期的な牧師会をはじめました。隣の教会まで車で5時間もかかるような地域にあつて、IT技術も大きな助けになると実感しています。

さて、現在の教区最大の課題は、全体教会からの支援金が減少していく中でも教区財政を破綻させないことです。そのため今期からさらに緊縮財政が徹底されます。お金が足りない分は創意と工夫で乗り切つていきたいと思っています。

これは今回のコロナ禍以前からの計画だったのですが、今期の取り組みの主眼は各教会の足腰の強化におかれています。そのため今期は教区全体の行事の開催を見送り、各個教会の宣教強化プラ

ンを教区が支援する計画が立てられました。

一方で、離れているからこそ共に集つて思いをあわせることの必要性も感じています。しかし各個教会においてすら集つて活動することが難しい今、困難な中にある世界と信仰の仲間のことを思つて、教区に属する全員で1日1回主の祈りを祈りましょう、との呼びかけがなされています。

教区の仲間の顔を思い浮かべながら祈る主の祈りによって、祈りによる一致が生まれていくと信じています。

東教区

松岡俊一郎
(東教区長・
大岡山教会牧師)

東教区は、来年度から始まる新しい第7次宣教方策「新しい教会を目指して」の作成の準備を進めています。37教会を教会現場では31人の教師13信徒宣教師で牧会しており、この他ルーテル学院神学校、教会事務局、本郷学生センター等で10名が働いています。またこれらの教師が福祉施設や幼児教育の場で働いています。

これからの10年、教区内の定年を迎える牧師が多いことと牧師の充足率の公平感を考えると、これまでの一教

会一教師の人事配置が難しくなることを見えており、これにどのように対応するか直近の課題となつています。

兼牧体制は当然のこと、中長期的には教会や地区の再編も視野に入れています。各教会・各地区の意見を聞きながら、それぞれの立場で考えていただき、集約する形で宣教方策としたいと思っています。

今年に入り、新型コロナウイルスへの対応が急浮上しました。感染増加が著しい首都圏を抱える教区として、各教会への礼拝と集会休止の提案、受難週と復活祭のための「個人・家庭礼拝のしおり」を発行、東教区NEXTと教育部の共同で教会学校と子ども礼拝への働きかけを行つていきます。

この感染症がいつ収束するかまだ見えていませんが、状況次第によつては、一つの場所に集つて礼拝をするというこれまでの教会と礼拝の概念を見直す必要があるかもしれません。

その先駆けになるかどうかは分かりませんが、常議員会をウエブ会議で始める準備をしています。

東海教区

徳弘浩隆
(東海教区長・大垣
岐阜・新霊山・知多教会牧師)

昨年帰国し、初めての東

海教区。今までの所属は西教区、東教区、教会事務局、ブラジルです。帰国1年で教区長に選出され、驚きと恐縮の気持ちです。

働き場の違いはあれど、危機感と同じ。むしろ、より現実のものとなりました。また、10年外国で働き、宣教師の教会の良さやそれに慣れ「自立した教会」になることの難しさを、宣教師の側からも見、考えさせられました。

東海教区は「宣教共同態勢」と「福祉村構想」が両

課題と取り組みは、①牧師が無理なく働ける環境づくり、②霊肉の健康維持への対策、③信徒の育成と更なる奉仕の場整備、④次世代育成と献身者育成、⑤福祉を宣教に生かせる流れ作り、⑥教会事務や文書管理の電子化による事務負担軽減・経費削減による伝道費確保で伝道の振起、⑦必要なら教会再編や老朽化教会・牧師館対策、⑧地区規

則見直し、⑨災害対応キックとと救援チームの設置

これからの各教区の課題と展開



西教区

水原一郎
(西教区長・
シオン教会牧師)

先の教区総会に於いて西教区長に選出されました。出身は板橋教会、これまで、千葉県の検査教会が3年、福岡県の久留米/田主丸/大牟田教会が7年でした。現在は山口・島根県のシオン教会、柳井徳山防府・六日市、「一粒の麦柳井」、「心促協会(防府)」で7年目の春を迎えています。趣味は縄飛び。30分です。趣味は縄飛び。30分です。趣味は縄飛び。30分です。

さて、教区の課題と展望をこの場で問われました。直面する課題や地域の事柄を担い、祈り、そして共に歩んで行くことにあると思います。教会を起点基

点として生活されている信徒の方の思いと願いを、これまでの教区常議員会が丁寧な寄り添い、聞いて行つたことに倣い、今後の歩みを共に整えて行くこと。畿内・中国・四国地域で複数の教会(礼拝所)をカバーする教職とその家族が配置されている現実を、その生の息吹において理解すること。それらを大切にしたいと思っています。そして「釜ヶ崎活動」については

信徒の皆さま・教会・教派を含め全国の皆さまからのご支援を頂いております。本当にありがとうございます。今後ともどうぞ続けてお支えをよろしくお願い申し上げます。

教区の今後の展望は、同じ総会で選出され、信任されたお一人おひとりと共に担うものであると思えます。共に担ってくれる大切な仲間です。困難な時代ではありますが、主から託されたものを引き継ぐために努力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

九州教区はまさに法人会連合です。ほとんどの地域で、社会福祉法人、学校法人、宗教法人が入り混じつて宣教を行つていきます。実に恵まれたこととです。今後、その連携を大切に行きたいと願っています。

九州教区

角本 浩
(九州教区長・神水・荒尾
合志・松橋教会牧師)

今期、宣教方策として、「20年後に持続可能な教会へ」ワンチーム九州と銘打ち、牧師が住んでいない教会を、互いにカバーし合つていく方向を目指しています。昨年、久留米教会、田主丸教会、大牟田教会、日善幼稚園の働きを、たくさんの方々の協力で担い合つたことで、ひとつとなる力を改めて感じたことも契機と

言えるでしょう。ひとつの方法として、すでに阿久根教会、鹿児島教会

大江教会で展開されているテレビ中継による礼拝を広げていけるか、検討していきます。

牧師数減少に伴つて、新しい形になつた具体的な1つは、室園教会の牧師が、九州ルーテル学院大学チャプレンを兼務するということとです。関わる牧師の労力は多くなるでしょう。働き方改革も必要です。でも、学校と教会をこれまで以上に強く結び付けていくことができます。その意義を積極的に受け止めています。

九州教区はまさに法人会連合です。ほとんどの地域で、社会福祉法人、学校法人、宗教法人が入り混じつて宣教を行つていきます。実に恵まれたこととです。今後、その連携を大切に行きたいと願っています。

新型コロナウイルスの影響によるものとはいえず、今春、およそ20年ぶりに教区総会で教職授任按手式が行われました。この厳粛な儀式に初めて参列した方々も多かったと思います。新しい息吹を多くの方々に共有できたことを感謝しております。

これからの九州教区をよろしくお願ひします。皆様のうえに祝福がありますように。